

この心如来となる

三寶寺報恩講に

「ご参加いただいた

皆さまからの「ご感想

山中 進さま「この歳になるまで、お寺でこのような温かいぬくもりに接しようとは夢にも思いませんでした！ 何も知らな

いで遅れてきて「無礼しました」町本さまの母上「とても楽しい報恩講でした。お齋のお料理も多彩で、とても嬉しく「ごちそうになりました」

三枝さま「僧伽の中にいることが、有り難いと思いました」

武藤さま「今年の報恩講にはたいへん満足を感じました。ありがとうございました」

坊守・花伝「ただひたすら、それぞれに、一同申し分なく、楽しそうでした。有り難

住職随想

新しい年は毎年来るのである。人生は無常であるとのべられているが、無常は、同じ苦楽、いのち、物体が永遠にあるといわないのである。いのちは常なるのが無いということである。いのち、教えという報恩は、受け継がれていくのである。世間ではこの世は無常であるというが、この考えは、生まれて死ぬということであろう。大無量寿経の中国の訳でも寿終とされているのである。その命終る時、喜怒哀楽、苦しみから解き離されることも含んで

うございました」

叶家正高さまからのお手紙

「拝啓(前略)さて、報恩講と新潟中越地震チャリティーバザーのご案内を頂き有難うございました。誠に残念ですが、当日は寄席の仕事があり出席することができません。

つきましては、義援金を同封しましたので、いつしよにお送り頂ければ幸いです。ご住職も新潟出身と伺っておりますので、さぞかし心配のこととお察し申し上げます。(中略)とり急ぎ用件まで」

桃井さまからのお手紙

「(前略)この度のチャリティーバザーの件伺い、是非と思いましたが、このところ実家へ行く用事が多く、当日も行かない。これは涅槃である。

いる。これは涅槃である。

新しい年は迎えられ、新しい生命が誕生していることも事実なのである。いのちを親鸞聖人は「寿」という字であらわしている。祝福された、祝いの寿というのである。この寿は、すべての人々が優しさと思いやりの慈悲なる心をもって、互いに助縁なる人々になることを願いとしている。寿は、いつも新しい文化・文明を育て生み出していく。そして、教えが人々に法として受け継がれていく。法は、夢の発展、理想国家、極楽浄土である。私たちが法という極楽浄土に生まれるのでなく、もともと

ければならず、申し訳ありません。同封の物未使用の物です。どなたかに使って頂ければと思います。

よろしくお願い致します。」

新潟県中越地震義援金「報告

二〇〇四年十一月二十八日(日)

三寶寺報恩講バザー売上金 三万一千六百六十円を朝日新聞社に「三寶寺報恩講実行委員会」として送付させていただきました。ここに御礼申し上げます。

真宗大谷派東京教務所の「新潟県中越地震義援金」に住職・坊守より二万円を送付いたしました。

また、新潟県在住のご門徒へ三寶寺より一万円の義援金をお送りしました。一日も早い復興をお祈りしています。

あつた極楽浄土に生まれるのである。

したがって極楽浄土なる寿なるものが終わってしまったらどうにもならないのである。寿は人々の持っている願いとされている。いろいろな形に変化して、受け継がれていくのである。草花のように、種から芽、茎、枝、花、実、そして種というように変化していく。人もまた、子から慈父母となるようである。これこそ寿なる無常であるので、寿を祝う新しい年として、いろいろな人々に良き芽が出るように、明けましてお芽でとうございます、と祝いたい。

江里佐代子様個展

三寶寺御本尊でお世話になりました江里様より個展のご案内を頂戴しました。1月5日〜2月7日 佐野美術館(静岡県三島市)「人間国宝 江里佐代子・截金の世界」展 ぜひお出かけください。

住職12月の日程

- 10日(金) 萬昌寺葬儀
- 11日(土) 定例法話会・ふれあい寄席 (釋尊成道会)
- 15日(水) 湘南組寺院忘年会
- 17日(金) 特別サンスクリット学習会

住職1月の予定

- 1日(土) 修正会 十四時半
- 8日(土) 定例法話会・ふれあい寄席
- 28日(金) サンスクリット学習会

住職2月の予定

- 12日(土) 定例法話会・ふれあい寄席
- 25日(金) サンスクリット学習会

住職3月の予定

- 12日(土) 定例法話会・ふれあい寄席
- 18日(金) サンスクリット学習会 (25日から変更のため注意)
- 17日(木)〜23日(水) 春の彼岸会
- 20日(日) 三寶寺合同彼岸会
- 26日(土) 埼玉本寺長男結婚式出席 (於名古屋別院)

合掌